

住宅トラブルを予防し、住まいで悩む人の救済をめざす情報誌

ハウズドクター通信

No. 8

平成 19 年 10 月

後悔しないための最新住宅事情

住まいのあり方、家族のあり方に注意信号

ここ数年、住まいの間取りは画一化に向かい、より快適に、より便利に過ごすための設備や機能といった、物質的・経済的な面だけが重視されてきました。その反面、親子のスキンシップや、家族のコミュニケーションが取りやすい間取りといった、人間的・精神的な面はないがしろにされてきたように思います。

誰もが家族の絆を育む住まいを望んでいながら、なかなか実現できずにいるのは、住まいに何が大切なのか、という「住まいの本質」を見失っているからではないでしょうか。

誰もいない、リビングルーム

リビングルーム（居間）は一家団らんの場と思いながら、実態はダイニングルーム（食堂）で食事をとり、そこでテレビを見続け、寝る時間までを過ごしている家庭が多くなったように思います。食事を終えてからリビングルームに場所を移し、会話を楽しんだり、テレビを見たり、一家団らんを楽しむという生活習慣がなくなってしまったように思います。

念願のリビングルームはつくったものの、子どもは自分の部屋にこもって出てこない、食事の時間に家族がそろわない、食べたらずくに個室に分散してしまうなど、雑誌やテレビなどで見る家族団らんの風景にはほど遠いものになっています。家族の個別化、個人化が進み、ますます混乱を極めているのが現代のリビングルームだといえます。

自分たちの暮らしのあり方や夢を家族で語り合うことなく、雑誌やモデルハウスなどで見た架空の家族団らんのイメージ＝虚像を追いかけた結果ではないでしょうか。

ダイニングとリビングが一緒になった「家族室」

ソファの置いてあるリビングルームには家族が集まらないというので、大きな多目的テーブルを置いた「家族室」をつくった方がいます。このテーブルは食事をするだけでなく、一方には書斎コーナーを設け、パソコンや電話があり、そばの棚にはボトルやグラスが並んでいます。主婦コーナーもあり、アイロンをかけた趣味を楽しむときに使います。子どもがパソコンやゲームを楽しむコーナーもあります。ちょっと向きを変えれば、オーディオルームやシアタールームにもなります。

家族みんなが集まる部屋が欲しいという夢の、ひとつの答えだと思います。